

神奈川県総合計画審議会 戦略プロジェクト二次評価調書

戦略プロジェクト名	PJ33 羽田空港の再拡張・国際化と京浜臨海部活性化
-----------	----------------------------

	二次評価意見	県の対応
総合分析の妥当性等		
1	総合分析は妥当である。	
2	目標 について、08年以前の数値を無人駅含まずに変更しないと紛らわしい。	白書に、無人駅を含まない実績値を2005～2008年について、参考値として記載しました。
新たな政策課題		
3	プロジェクトの設定にあたり、「羽田空港の再拡張・国際化」と「京浜臨海部活性化」は、別々のプロジェクトにする必要がある。「羽田空港の再拡張・国際化」については、交通整備という手段的な策だけではなく、国際化を達成するための戦略的な策が必要となる。	点検の中で対応を検討します。
4	羽田空港の国際化は、中国企業を中心とした東アジアとの関係や京浜臨海部への影響を考える必要がある。羽田空港の国際化を地域の活性化につなげるよう戦略的な取組みが必要である。また、港湾との連携も視野に入れる必要がある。	点検の中で対応を検討します。
5	羽田空港から神奈川への海上交通に関する検討過程が不明確である。観光客の視点に立った検討が必要である。	点検の中で対応を検討します。
6	一様に‘企業誘致’‘地域間交流・連携のための交通ネットワーク整備’といった画一的な施策は避けるべき。地域圏のビジョン（有りたい姿）が見えない。地域に表明させるべき。その中から特区的な強化支援策を県が施してはどうか。そのビジョンに基づいた施策やハード整備を進め、結果、積極的な地域とそうでない地域に差が出ても良い。地域毎のまちづくりに熟成度や時間差があるのは必然。	点検の中で対応を検討します。

神奈川県総合計画審議会 戦略プロジェクト二次評価調書

戦略プロジェクト名	PJ33 羽田空港の再拡張・国際化と京浜臨海部活性化
-----------	----------------------------

	二次評価意見	県の対応
目標設定の課題		
7	近年の京浜臨海部における物流機能の増大と目標値としている製造品出荷額等との相関関係が不明確である。	点検の中で対応を検討します。
8	一日あたりの乗降数は、既存産業の高度化に伴う研究所機能の増大と住宅化に伴う乗降数の増加が考えられ、何を意味する目標数値なのか明確ではない。	点検の中で対応を検討します。
9	「京浜臨海部活性化」では、ロボット、エコ・エネルギー、ゲノム関連産業創出の目標を一つの産業でもよいので、設定し、強力に進めるべきである。	点検の中で対応を検討します。
10	目標 について、景気の動向により、実績が左右されるような目標ではなく、競合エリアなどと比較することできるようなベンチマークを目標として設定することが望ましい。	点検の中で対応を検討します。

神奈川県総合計画審議会 戦略プロジェクト二次評価調書

戦略プロジェクト名	PJ34 三浦半島の魅力あふれる地域づくり
-----------	-----------------------

二次評価意見		県の対応
総合分析の妥当性等		
1	総合分析は妥当である。	
新たな政策課題		
2	三浦半島地域は、自転車走行に快適な景観コースが多い希少な地域であり、観光や環境、健康維持という側面からも従来の自動車高速道路整備行政からの意識を変え、地域圏の魅力を活かした「自転車ルートのネットワークの充実」という視点でエコロジーなまちづくりにつながるような取組みの検討が期待される。	点検の中で対応を検討します。
目標設定の課題		
3	三浦半島国営公園の誘致や鎌倉世界遺産登録の推進に対する民意の醸成度が不明確である。また国営公園の誘致や世界遺産登録への反対者もいるようであり、周辺市町を含めた地元民意を図るアンケートや提案事業制度などを企画して盛り上げる必要がある。また波及効果を含め、目的を共有するプロセスが重要であり、アンケート結果などによる民意浸透度の目標設定について検討する必要がある。	点検の中で対応を検討します。
4	欧州のB & B（ベッド&ブレイクファスト）などの宿泊施設を参考として、観光資源となる農漁業体験型施設を更に発展させオリジナリティのある宿泊施設・宿泊プランを展開させる支援をすることはどうか。世界遺産登録に向けた周辺整備（宿泊施設確保・ホスピタリティ教育）としての視点を施設運営者に意識づけし政策をつなげ、施策と共に民宿数を目標値とすることも検討する必要がある。	点検の中で対応を検討します。

神奈川県総合計画審議会 戦略プロジェクト二次評価調書

戦略プロジェクト名	PJ35 環境共生モデル都市圏の形成
-----------	--------------------

	二次評価意見	県の対応
総合分析の妥当性等		
1	総合分析は妥当である。	
新たな政策課題		
目標設定の課題		
2	「環境共生モデル都市圏の形成」は公共交通の整備やツインシティ整備だけにとどまらない。 「 <u>県央・湘南都市圏環境共生モデル都市づくり推進要綱</u> 」の普及成果を数値目標に入れるなど、 <u>要綱の一層の普及に努める必要がある。</u>	点検の中で対応を検討します。

神奈川県総合計画審議会 戦略プロジェクト二次評価調書

戦略プロジェクト名	PJ36 相模湾沿岸地域の魅力の保全と創造
-----------	-----------------------

	二次評価意見	県の対応
総合分析の妥当性等		
1	<u>総合分析は妥当である。</u>	
2	景観・まちづくりに関する県民意識の高まりは 妥当な分析であり、成果が得られている。	
新たな政策課題		
3	県内でも有数の魅力ある観光資源を生かし、国 内外からの誘客を目指す事業への戦略展開を検討 すべき。	事業実施の中で対応を 検討します。
4	景観保全や地域振興などの活動支援だけでな く、県主導による観光誘致の戦略が欲しい。 <u>県内でも有数の魅力ある観光資源を生かし、欧 州の滞在型ビーチリゾートなど、国内外からの誘 客をめざす戦略展開を検討する必要がある。</u>	点検の中で対応を検討 します。
目標設定の課題		

神奈川県総合計画審議会 戦略プロジェクト二次評価調書

戦略プロジェクト名	PJ37 交流・連携による県西地域の活性化
-----------	-----------------------

	二次評価意見	県の対応
総合分析の妥当性等		
1	<u>総合分析は妥当である。</u>	
新たな政策課題		
目標設定の課題		
2	<u>富士・箱根エリアは、世界的な認知度も高い観光エリアであることから、<u>県西地域の交流連携の活性化に向けて、国内外のターゲットを明確にした誘致戦略を進める必要がある。</u></u>	点検の中で対応を検討します。

神奈川県総合計画審議会 戦略プロジェクト二次評価調書

戦略プロジェクト名	PJ38 安全で活力ある県土づくり
-----------	-------------------

	二次評価意見	県の対応
総合分析の妥当性等		
1	総合分析は妥当である。	
2	目標の減災のための防災情報の提供率は、総合分析にあるとおり成果を上げていると考えるが、高齢化が進む中で、災害情報の提供の成果はどうなっているのか。ハード対策には限界がある中で、ソフト対策はその成果を明確にしにくい面があり、分析上の工夫が必要と考える。	白書に、災害時の避難など、具体的な対応については市町村レベルでの対応となりますが、市町村における防災計画や避難活動のベースとして活用されていることを記載しました。
新たな政策課題		
目標設定の課題		
3	目標の設定にあたり、環境都市を推進する神奈川県の中で、渋滞解消を掲げたハード対策である道路整備中心の政策から、「ライフスタイルや事業活動のあり方の転換」を目指したマイカー利用の抑制などのソフト対策の目標設定を検討すべき。	点検の中で対応を検討します。
4	高齢化が進む中で、安全で活力ある県土づくりを実現することが当面の大きな課題であり、環境の視点からのマイカー利用の抑制や、人口減少と高齢化が同時進行する中での公共交通機関の活用視点が必要である。	点検の中で対応を検討します。
5	新幹線新駅の誘致やインターチェンジなどの道路整備事業が優先されている現状と「県土・まちづくり」政策の基本方向にズレを感じことから、「県土・まちづくり」政策の基本方向について、優先順位の高い事業にかかわる目標とする必要がある。	点検の中で対応を検討します。

神奈川県総合計画審議会 戦略プロジェクト二次評価調書

戦略プロジェクト名	PJ38 安全で活力ある県土づくり
-----------	-------------------

	二次評価意見	県の対応
6	<p>環境都市を目指した交通整備においては「自転車道ネットワーク」の整備は不可欠である。単なるレクリエーション的な自転車道ではなく、自転車を交通手段として機能させるような自転車道を整備することにより、渋滞解消につながる。また、道路整備と併せて、企業の自転車通勤を促進するなど、自転車活用施策を推進すれば、環境効果のみならず健康維持による医療費削減にもつながる。したがって、自転車道ネットワーク延長を目標値として設定する必要がある。</p>	<p>点検の中で対応を検討します。</p>